



第35号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会-東京支部) 会長=両角寛文 編集=91回生(昭和60年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオバラム

伝統とNew Normal

—われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」—

本年の東京清陵会だよりの発行にあたり、幹事学年である91回生が掲げたテーマは、伝統とNew Normal—われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」—だ。我々世代は、旧世代(高度経済成長からバブルに沸いた絶好調世代)と新世代(バブル崩壊以降のいわゆる失われた30年を経て多様性を増した世代)の両方の世代に共感できる「架け橋」となるべき世代との想いを込めた。

New Normalを実感できる事象は事欠かないだろう。株式市場の34年ぶりの最高値の更新、その背景にあるデフレの終焉、我々は金利のある世界への入り口にいる。テクノロジーの進歩や社会習慣の変化は、コロナ禍を経て本来あるべき速度よりも加速した。確実に予想できる

日本の未来は人口減少と少子化だ。そしてAIの社会実装が今後想像を絶する変化を生み出すだろう。我々が清陵生だった頃には想像だになかったことが、今実現しているように。

一方で、New Normalに適応するだけでは変化に翻弄されてしまう。New Normalを能動的に創っていく努力が不可欠で、そこには伝統という温故知新の発想が重要だろう。伝統には人間の本性に通じる真理が内包されているのだろう。伝統を重んじ、しかし伝統にあぐらをかくずにNew Normalを創っていく。そのためにも我々「架け橋」世代が、「拓く・繋ぐ・紡ぐ」ことで果たすべき役割は大きいのではないだろうか。

2016年6月のNHKスペシャルは、古

代史ミステリー「御柱」～最後の「縄文王国」の謎～と題する特集を放送した。木に神が宿るとの信仰は、日本のみならず世界にも多く存在するが、なぜ諏訪にだけこの規模の神秘的な祭りが受け継がれているのかを、最新の研究成果から明らかにしようとした秀作だ。御柱は、古代の神々の争いと融和の物語であり、諏訪地方が黒曜石貿易で繁栄した縄文時代から、稲作に象徴される弥生時代への転換のきっかけとなったのではないかと結んでいる。

伝統とNew Normal。伝統を大切にしながら果敢に変化に挑戦する、清陵生はこれを「自反而縮雖千萬人吾往矣」の精神として受け継いでいる。本会報でもそうした同期生の活動を紹介したい。

(91回生学年幹事一同)

2024年度

東京清陵会定期総会のご案内

総会および記念講演会は会場+Zoomによるハイブリッド開催を予定

■日時=2024年10月5日(土) 12:00(11:45受付開始)

・総会=12:00~12:30

・記念講演会=12:30~13:30

演題「地上の太陽を目指して(民間核融合炉開発の最前線)」

講師 株式会社Helical Fusion代表取締役 宮澤順一(91回生)

・懇親会=13:30~15:30

■開催場所(ハイブリッド開催)(変更)

会場:喜山倶楽部(日本教育会館9F)「平安の間」

東京都千代田区一ツ橋2-6-2 ☎03-3262-7661

※神保町駅(都営新宿線/三田線・東京メトロ半蔵門線)下車、徒歩3分

※オンライン=Zoomでの配信を予定(無料)

■会費懇親会参加費:事前お振り込み(変更) 8000円(~108回生)
109回生から120回生6000円、121回生以降2000円

お振り込み先

●ゆうちょ口座 記号番号:00130-2-16785

●ゆうちょ銀行 店番:〇一九 当座 口座番号:16785

(お振り込みされる場合は、「回生 名前」でお願いします。

例=91回生 清陵 太郎の場合:91 セイリョウ タロウ)

※会員の方:懇親会参加費に年会費(2000円)を合わせてお振り込みいただくようお願いします。懇親会不参加(または、オンライン参加)の場合は、年会費のみお振り込みをお願いします。

※他支部からの参加の方:懇親会参加費のみお願いします。

■お申し込み方法

右上のQRコードの「参加登録フォーム」にて、参加登録をお願いします(会場、オンラインとも)。

参加登録締切:2024年9月20日(金)

■問い合わせ先=91回生当番幹事

91tokyoseiryokai@gmail.com



お申し込みはこちら

特集

伝統とNew Normal -われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」-

変化の波から生まれいずる
New Normal

— 未来の「伝統」へ、橋を架ける

〈鼎談〉牛山健一 内野かおり 樋口俊一 〈司会〉藤森完一

91回生座談会2024.2.12 Zoomにて

従来の文化や慣習がさまざまな面で変化を迫られる今という時代を捉えた「伝統とNew Normal」。そして91回生の特徴を表現した「架け橋世代」。2024年の同窓会テーマはこの2つの複合形としました。私たち91回生は、時代の大きな転換点を経験し、旧と新、上の世代と若い世代との狭間で息苦しさを感じながらも、架け橋としての役割を果たしてきた側面があります。そんな91回生4人が、このテーマをめぐる語り合いました。

激変した仕事環境
いかなる架け橋が可能か

藤森 新型コロナの蔓延以後、多くの業界で環境が大きく変わってきていると思います。それに対してどんな対策をとっているのか、将来に向けてどんな架け橋が可能かなど、お聞かせください。

内野 私の仕事に近い山小屋の運営管理や遭難救助の現場も、コロナで激変しました。山小屋は元来、遭難防止の観点から、訪れた人の宿泊を拒否することはなかった。また北アルプスの涸沢など紅葉の名所では、ハイシーズンになると1枚の布団で初対面同士が3人くらい一緒に寝るのが普通の混み方でした。それがコロナ後は完全予約制になり、布団は1人1枚使用、感染予防にも労力がかかるようになった。さらにヘリ輸送代の急騰も加わり、経営コストが嵩んで利用料金が高騰しました。

併せて難しくなったのが、遭難救助です。救助活動は緊急性が高く、怪我人を背負って運んだり、心肺蘇生法を施したりと、肉体的に密なものです。それがコロナ下では、マスクやメガネ、防護服の着用などを迫られ、救助活動に携わる人たちは足枷を負っていました。

藤森 山小屋の経営者や登山者がコロナから受け取ったのは、負の遺産ばかりでしょうか？

内野 一方で恩恵もありました。山小屋では、宿泊予約が前提となったことで、繁忙期に殺到していた宿泊者が分散して、コンスタントな集客が見込めるようになったそうです。また個人スペースが確保されて、以前よりも滞在環境は快適になったと思います。

藤森 私が身を置く医療界でも影響は甚大で、特に悩ましいのが受診控えです。高血圧や糖尿病など慢性疾患の患者さんが、コ

ロナ感染を危惧して「自分は元気なほうだから」「少しくらい薬を飲まなくても」と通院を中断してしまうんです。

対策として、診療時間や患者さんの院内滞在時間を短縮できるよう努めるからと、ホームページや院内の貼り紙で来院を呼びかけています。本来は患者さんの話をじっくり聞いて、丁寧な診療をしたいのに、受診を促すために「その逆をやります」と言わなければならないのが辛いところです。ゆとりのある診療体制に戻せる日が待ち遠しい限りです。

メディアのあり方を
根源から問い直す

牛山 ジャーナリズムの現場で深刻な痛手となっているのが、コロナで記者会見の時間が短縮されたこと、一問一答式になったことです。その上、官僚が事前に質問取りをして想定問答集を作り、大臣は用意されたペーパーを読み上げるだけ。再質問は疎まれる。形ばかりの空虚な会見に記者も慣れてしまい、丁々発止のやりとりが見られません。

藤森 時間短縮も、質問や回答の事前準備も、密な接触を最低限に抑えるための配慮だったのでしょけれど……。

内野 今のままでは言論の自由や国民の知る権利も脅かされかねませんね。

牛山 現状をNew Normalとは呼びたくないですね。清陵の校是にも「自反而縮雖千萬人吾往矣」とある通り、訊くべきことは訊くんだと自分自身に課していますし、後輩たちにも疑問点とはとことん追及するようにと言い続けていきます。

樋口 コロナの話題から離れますが、ドラマの制作現場で今、まさに伝統とNew Normalが衝突しているのが、原作者と脚本家の相剋です。ドラマの原作者と番組制作者との間に溝が生じ、結果的に原作者が

亡くられるという事件が起きて以来、これまで見過ごされてきた課題が一気に噴出し、ネット世論は原作者擁護に大きく傾いて、公正なドラマ化、映像化のあり方について根本的に考え直さざるを得なくなりました。

藤森 あの事件がそこまで樋口さんの身近な問題だったとは、初めて知りました。

樋口 心理的安全性を担保しながら、原作者と脚本家が一堂に会する新しい脚本会議のあり方を模索する中で、十箇条のルールを作って関係者と共有し始めました。原作者の死を無駄にしないためにも、過去からの脱却を目指すNew Normalを構築中です。

藤森 将来まで見据えた対応に頭が下がります。

内野 大きな過渡期に臨んで、各業界にいろいろなNew Normalが生まれているんですね。

どちらの心情もわかるから
できる架け橋がある

牛山 現在、スマホが通信手段の筆頭となり、コロナ禍を経て紙メディアや放送もデジタル対応を加速させています。ただ、コミュニケーションはもちろん、経済面でもスマホの影響は大きいと感じます。我々が10～20代の頃は、かろうじて右肩上がり時代でもあったし、スマホの支払いがなかった分、CDを買ったり美術館に行ったりすることができた。スマホが前提の社会となる一方、経済格差が広がり、二極化が進んでいきますね。

藤森 私たちは一億総中流などと言われた時代に育った。本人の努力に稼ぎも比例して、将来展望も描きやすかった。

内野 私たちの世代と、親の世代・子の世代を見ると、親世代は完全なアナログ世代。子の世代はデジタルネイティブ。アナログを経てデジタルへ移行してきた私たちは、



藤森完一
諏訪市出身、宮城県在住。フォレスト内科クリニック院長。



牛山健一
茅野市出身、長野市在住。信濃毎日新聞社総務局次長・経営戦略会議事務局長(座談会当時、東京支社報道部長)。



内野かおり(旧姓=小林)
諏訪市出身、茅野市在住。中日新聞上高地支局管理人。



樋口俊一
下諏訪町出身、埼玉県在住。NHKメディア総局ドラマ番組チーフプロデューサー。

両方について語れる、まさに架け橋世代ですね。アナログ文化には、手間ひまはかかるけれど情緒的な豊かさがあった。一方のデジタル文化は簡単で便利、でも味気なさも感じます。

樋口 仕事の連絡一つにも世代の差は歴然と表れます。例えば老年層のプロデューサーは1日に10回くらい電話をかけてくる。若年層のスタッフはメールやLINEの世代だから、何度も電話の着信があると立腹するか、もしくは電話を無視して出なくなります。

藤森 電話に慣れている上の世代が「メールを入力している間に電話で話せば用は済むじゃないか」と思う心情はわかります。逆に若い世代が、お互い都合のよいときに確認・応答できるメールを好むのももっともです。文字で記録が残れば誤解も防げますしね。

樋口 私たちの世代はその中間的な対応をしていて、「非常識だな」と思いながらも電話に出ます。どちらの気持ちもわかるから、憤慨している若年層をなだめることもできるし、若年層の対応が腑に落ちない老年層を説得することもできる。こんなふうには、架け橋世代だからこそできることがそれぞれにありそうです。

昨年、東京清陵会のミドル交流会に参加させていただいて、清陵の同窓会らしい素晴らしい事業だなと感じ入りました。ああいう知への探究心を充足させてくれるイベントを、架け橋世代として幅広い年代の人たちをつなぎながら一緒にやっていきたいですね。

コロナ前への逆行、二地域居住の可能性

牛山 New Normal関連で言うと、コロナで一時的に東京から地方への移住が増えましたが、昨年は東京から出る人よりも入る人が増えて、再び一極集中の流れが起きています。

樋口 その影響で東京の不動産価格も上がりました。東京では、コロナ下で形成され

たNew Normalは瓦解し始めています。通勤電車の混雑は復活し、インバウンドはコロナ前よりも増えて、テレワークは廃止の方向に進んできました。

内野 テレワークなら、通勤の手間は省けるし、自宅なら仕事により集中できて、メリットは多そうなのに？

藤森 東京の企業でも、長野県など周辺の田舎に住みながらテレワークで働く人が増えていくのかと思いましたが。

樋口 私たちより上の世代は、テレワークよりも会社に出勤して対面で会議を行う形に慣れています。その世代が役員に就いていることの影響はありそうですね。

牛山 一方で、平日は東京で働き、週末は諏訪で暮らすというような二地域居住は、以前よりも成り立ちやすくなったのではないのでしょうか。現在、諏訪地域や長野県も国も、二地域居住を促していて、助成制度の整備も進んでいます。

また、これから就職や転職を考える人には、長野と東京の両方に本社・支社を構える企業を視野に入れることをお勧めしたいです。経済面で会社の補助を受けながら、長野と東京の双方で仕事や生活が可能になっています。

藤森 二地域居住への関心は年々高まっていますね。地域に貢献できる機会も増えるでしょうし、故郷と都心との架け橋役を演じられる場面もありそうです。

世代や性別を越えた活躍の場づくりを

藤森 91回生の我々はどうな架け橋が可能なのか、どんな架け橋をしてみたいか、お考えはいかがでしょう。

樋口 同窓会活動のさらなる充実を考えると、若い同窓生の皆さんが公私ともにより活躍しやすい環境をつくっていけるといいですね。諏訪地域では他校連携の拡大に期待したいです。地域内のネットワークを拡げて信頼関係を築いていくことで、力を発揮できる場も増えていくかと思います。

内野 今の若い世代は、以前よりもおとな

しくなっていると感じます。それは、いわゆる“ゴタ”をやると頭を押さえつけられるような世の中の風潮とも連動している気がする。そういう時代だからこそ、若い世代がのびのびと活躍できる環境づくりは意義深いですね。

牛山 私の職場では、諏訪出身の先輩方や同世代の人たちは歯に衣着せぬ物言いや議論好きという点で一日置かれていましたが、10歳下くらいになると同じ諏訪人でもおとなしい印象があります。

一方、近年若者の発想力や行動力に感心させられる面もあります。高校生や大学生のボランティア活動やまちづくりへの参画など、我々が10~20代だった頃にはなかった積極的な社会参加が増えているんです。

樋口 同感です。「やらされている」のではなく、自ら進んで嬉々としてやっていますよね。併せて、女性の活躍ぶりにも目を見張るものがあります。私の職場では、女性のほうがアクティブでバイタリティもあるし、魅力的な企画を出してくる。人数比率で見ても、昔は女性社員が1割ほどだったのが徐々に増えて、今は3割近くにまで伸びています。

藤森 若い世代や女性のますますの活躍もNew Normalと言えるのかもしれません。世代や性別にこだわらず多様な橋を架けることで、一人ひとりの力をよりよく発揮してもらえる場を創出していきましょう。優れたNew Normalは、生き残り、やがて新しい伝統になり得るものと考えます。伝統を「守る」だけでなく「創る」という視点も重要です。

〈座談会を終えて〉

変化が速く激しい時代。異質なものと対極にあるもの同士に橋を架ける意思と行動から、未来の伝統になり得るような次なるNew Normalは育まれるのではないかと感じました。架け橋世代がその先導役を担えたら幸いですし、幅広い世代の人たちとさまざまな架け橋を楽しんでいきたいものです。

91回生
寄稿清陵出てから36年、
そしてあと10年で……

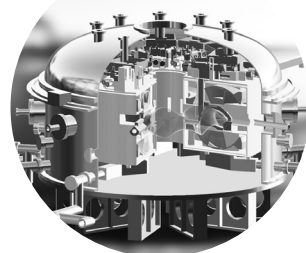
●宮澤順一(みやざわ じゅんいち)



profile

岡谷市出身、地方会は西龍会でした。岐阜県多治見市在住。株式会社Helical Fusion 代表取締役。大学ではグライダーで空を飛ぶ航空部の主将を務めました。大学院を博士課程2年で中退して岐阜県にある核融合科学研究所に勤務。大学院も付属して教授でした。2021年10月に核融合スタートアップのHelical Fusion社を起業。核融合研は昨年1月に退職し、現在はHF社の代表取締役として核融合炉開発にフルコミします。大学院以来ずっと核融合のことを考えています。今も変わらず岐阜住みですが、順調に行けば数年内にHF社研究施設を建設して移住する予定。バイクはズーっと2003年型カワサキZ1000。最近子供らが車に乗り始めたおかげで憧れのハスラーとキャンバスの両方に乗れて嬉しい。

ヘリカル核融合炉のイメージ
(Helical Fusion社ホームページ
<https://www.helicalfusion.com>より)



きたヘリカルで核融合炉を作ろうというスタートアップは海外に無く、日本はトカマクしかやらない。ヘリカルだけが核融合炉になり得るのだとしたらどうする？ てか自分は考え抜いた上でそう信じているんじゃないのか？ 自反而縮雖千萬人吾往矣……高校時代に叩き込まれた清陵魂が、やれ、やっちゃんえと背中を押してくれました。

そして、ヘリカル核融合炉の社会実装を目指す株式会社Helical Fusionを2021年10月に起業しました。幸い、良き仲間恵まれ、理解ある投資家様や投資会社様にも出会い、順調に滑り出しています。かつての煩悶はどこへやら、今はものすごい追い風を感じつつ疾走しています。2034年に定常核融合炉を実現するのがHelical Fusion社の目標です。70年かけても実現できておらず、巨額な予算を注ぎ込んでいる国際協力のITERだってまだまだなのに、日本の小さなスタートアップがあと10年でとか無理でしょという人は多いです。でもやったらすごいでしょ？ 10年後を楽しみに待っていてください。

清陵出てから36年、今では核融合スタートアップの代表を務めています。え、核融合とか聞いたことない？ 原子力発電所ではウランなどの重い原子が核分裂する際に放出するエネルギーを使って発電しますが、軽い原子同士が合体＝核融合する時にも莫大なエネルギーを放出します。これで発電するのが核融合炉です。

太陽や宇宙の星々は核融合で輝いています。それを人類の究極のエネルギー源にしようと、1950年代から世界各国で核融合研究がスタートしました。当初楽観視されていた核融合炉の実現は、しかし、70年余りを経た今もまだ果たされていません。あと20年、あと30年と繰り返し、逃げ水とかオオカミ少年とか揶揄されてきたのが核融合です。それでも、何万年も管理しなければならない高レベル廃棄物を出さず、暴走しないなど安全性も高い核融合は人類究極のエネルギー源であり、実現せねばならないし、きっと実現できると信じてきた研究者たちがいました。私も今、その末席にいます。

清陵を出てから入った東大では、進振りといって成績優秀者から希望の学科に進めるという人生ゲーム的イベントがありました。不真面目な学生だった私は定員割れしている不人気学科しか選べず、それでも当時反原発のベストセラーを愛読していた者としては、かの原子力ムラに潜入できると喜んで原子力工学科に進んだのでした。駒場で教養を積むためのお勉強に辟易していた私も、本郷に移ってからは専門的な学問の瑞々しさに魅了されました。原子力発電は積み上げられた学問の上にあり、安全についても考え抜かれているのだと学びました。そんな中、核融合を知り、興味を持ちました。核分裂炉は核融合炉までの繋ぎ、とか、核融合は難しいが天才が一人現れれば実現するだろう、とか聞いて、じゃあ俺がその一人になってやろうと思ったのでした。当時人気があった宇宙や航空、素粒子などの分野は既に秀才たちで埋め尽くされていて、今からそのトップを目指すのは難しいけど、不人気でやってる人が少なそうな核融合なら自分で

もワンチャンあるかもと。

さて、核融合炉はかれこれ70年経ってもまだ実現できていないわけですが、それは単純に難しかったからです。難問にぶつかり、それを解決して三歩進んだらまた難問が現れて二歩下がるといったことが繰り返されてきました。核融合を起こす方法もこれまで色々と考えられてきました。それらの中でも磁場で高温のガス＝プラズマを閉じ込めるトカマク方式とヘリカル方式、強力なレーザーで核融合燃料の粒を爆縮するレーザー方式の3つが予選を勝ち抜き、世界各国で大きな国家予算が投入されてきました。私が長年勤めてきた岐阜県の核融合科学研究所には我が国が誇る(べき)大型ヘリカル装置LHDがあり、日本のJT-60Uや英国のJETといった大型トカマクに伍する成果を挙げてきています。現在フランスでは世界各国が協力し、人類史上最大のトカマクITERを建設中です。残念ながらITERの建設は遅れに遅れています。その一方、予選で消えたと思われるその他の方式を少ない予算でひたすら研究していた人たちがいました。その人たちが投資家や投資会社から巨額の資金を獲得し、世界中で核融合スタートアップを乱立しているのがこの数年の出来事です。それらが世界初の核融合炉実現へと抜け駆けする可能性が全くないとは言えず、もしそうならば巨大な富を産むということで注目を集めています。

日本では国家プロジェクトとしてトカマクが選ばれ、オールジャパンでITERを推進しようということに何となくなっています。私は20年以上ヘリカルを研究してきて、もちろんトカマクやレーザー、その他の方式も一通り勉強し考えた上で、ヘリカルしか核融合炉にはなり得ないという悟りに至っており、そのオールジャパンには異議がたんまりとあったのですが、一介の研究者にはどうしようもなく、悶々とした日々を送っていました。そんな中、海外で予選落ちの其他方式が自力でお金を集めて核融合炉を実現しようとしていると聞き、目を覚まされました。

日本の核融合科学研究所で培われて

特集

伝統のNew Normalーわれら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」ー

91回生
寄稿

変わらないきや

●土屋 景(つちや あきら)

清陵出てから20年という歌がありました。私はその倍近く、36年がたちました。私たちの時代は、伝統を誇り、タテ社会を体現した校風でした。地方会による校歌指導や、鶏の頭が入ったカレーを食べる試胆会などは、人生最初の恐怖体験でした。柔道部で過ごし、数学が苦手なのに理系クラスに在籍。結局ひそかに文転し、受験で全敗しました。名古屋の河合塾で1年浪人し、なんとか東京の大学生になりました。

大学入学時は「バブル」真っ盛り。娯楽が少ない辰野町で18年育った反動で、いろんな「楽しい」ことに首を突っ込みました。先輩たちは「バイト代が入った」と電話をかけてきて、毎日のように夕飯をごちそうしてくれます。夜にドライブをして有名なラーメン店を訪れ、タレント会いたさにテレビ局内に入れるアルバイトをやってみました。破格の時給に惹かれ学習塾の講師もしました。高額美術品を取引する会社が節税対策のためにやっていた会社だと知り「美術品、いくらで取引されているのか」と考えこんだりもしました。

勉強もせずに惰眠をむさぼり、「花の東京」をむさぼった東京時代。なんとなく就職活動を始め「楽しそう」という理由でマスコミを志しました。情報の最先端で「カッコいい」と思っていました。

自分の知らないところでワクワクが起きると取り残された気がする。自分抜きで重要なことが決まってしまうのも寂しい。社会で不幸な出来事があるのなら、少しは良くしたい。もっと社会の表裏を知りたい。そんな気持ちがないまぜになっていたような気がします。

記者になって30年以上がたちました。国内を転々とし、出張で国内外のいろいろな場所を訪れました。就職してからの引っ越しは計9回を数えます。自宅は東京にありますが、辞令一つでどこにでも飛んでいく生活です。

比較的、政治部には長く籍を置きました。当時の小泉純一郎首相の隣でよくテレビに映り込みました。またラジオに出演し、声を届けることもありました。辰野の両親は喜んだと聞きました。

取材を通じて二つの関心事項が生まれました。一つは少子高齢化、もう一つは働き方です。いずれも伝統的な価値観が影響を及ぼしやすく、「変革」が求められる分野です。

「世界長者番付」第1位に輝いたことがあるイーロン・マスク氏は2022年の出生数が80万人を割り込んだ日本の少子高齢化について「日本では昨年、出生者の2倍の人が亡くなった。人口の急降下だ。他の国々もそれに続く傾向にある」と投稿しました。マスク氏はその後も、変化がなければ「日本は生きながらえることはできない」「日本は消えてしまうだろう」などと警告を発しています。日本で毎月6万人強が生まれ、倍以上の13万人強が死んでいる状況です。

総務省は2018年「未来をつかむTECH戦略」を発表しました。少子高齢化を日本に忍び寄る「静かな有事」と指摘し、テクノロジーの変革が起こると予測しました。生産性が上がれば、人口減少社会でも日本の国力を維持できる、といった内容です。

この戦略によれば、2025年ごろ「AIが人の代役となる」とあります。「民事調停の調停案をAIが提示」「監督の演出意図を理解するバーチャル俳優がデビュー」「AI秘書やAI教師を登用」などと列挙されています。

放送業界では、既にAI自動音声によるニュースの読み上げが始まっており、深夜早朝のアナウンサーの働き方が変わり始めました。エンタメでみれば、ボーカロイドが登場して、一定の地位を占めつつあります。

私の職場は「記事を書く」のが主な仕事です。現在、AIが新聞用の原稿をデジタルメディア向けに要約・加工することはできるのかどうか、調査をしています。私の思った以上にAIは要約が得意です。発表資料から基本的な原稿をつくる作業は近いうちに任せられると思います。さきほどの戦略によれば、AIが人を超える「シンギュラリティ」が2045年頃、とも書かれています。

今回の同窓会のテーマは「伝統とNew Normal」でした。われらが「架け橋」世代と呼ばれるためには、その



profile

辰野町出身、東京都狛江市在住。一般社団法人共同通信社 総務局労務部長。高校時代は柔道部。個人戦は60kg以下の軽量級に出場していました。当時の写真に収まる自分はスリムですが、就職後にブクブクと太りました。ダイエットに成功したのはわずか2年間。酒を飲むと何かを食べなくなり、周囲からは「満腹中枢が壊れている」と言われています。勤めている共同通信社は全国の新聞社、NHKを通じてニュースを配信する会社です。本社は夕留にあり、日本テレビや電通が近くにあります。記者生活、つらかったのは大阪での事件取材、驚きがあったのは東京での政治取材でした。少し前までネット向けのコンテンツを作成する部署にいました。3年前、必要に迫られてゴルフを始めました。55歳を前についに花粉症になりました。

双方に足場を持たなければなりません。まずは伝統を学ぶこと。そして、広がりつつあるNew Normalを楽しみ、活用することが第一歩なのかなと感じています。

私で言えば人任せにせず、自ら歴史を学び、AIを体感していこうかなと思っています。そして時間というタテの軸だけでなく、国内だけでなく今生きている地球という空間、ヨコ軸も意識していきたいと思っています。

清陵のモットーだった「自反而縮雖千萬人吾往矣」のように、不動心を持って、逆境にも揺るぎなく立ち向かえたらいいのにと考えますが、省みてしまうとなかなか前に進めないことが多くなってきました。私の最近のお気に入り、イタリア映画『山猫』の名セリフ「変わらずに生き残るためには、自ら変わらなければならない」です。



弊社編集会議のよう(筆者撮影)

特集

伝統とNew Normal —われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」—

91回生
寄稿

頼れる伝統と多様性から 生まれるNew Normal

●山崎 創(やまざき そう)



profile

諏訪市出身、東京都大田区在住。東邦大学医学部生化学講座・准教授。1988年、長野県諏訪清陵高校卒業。1992年、東北大学理学部生物学科卒業。1994年、九州大学大学院理学研究科修士課程修了。1997年、九州大学大学院医学系研究科博士(理学)。1997年～1999年、日本ロシユ(株) 研究所研究員。1999年～2006年、九州大学大学院医学研究院助手。2004年～2006年、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士研究員。2006年～2015年、九州大学大学院医学研究院講師。2015年～現職。



最近リニューアルされた立石公園からの眺め

清陵を卒業して35年以上経ちますが、在学中は伝統という言葉をよく耳にしました。ちょうど私たちの頃に取り壊された旧校舎の階段下に掲げられていた「自反而縮雖千万人吾往矣」の大きな看板や、校歌の手拍子などと共に懐かしく思い出されます。新しい校舎になって構成員が入れ替わっても伝統が引き継がれていくのは、その特色に時代を越えた魅力と信用があるからだと思います。私は理学部の出身ですが、現在は医学部の教員として、自身の研究を進めつつ、学生に生命科学や基礎医学の知識を伝えています。一つの生命個体を構成する物質たちも時間が経てばすっかり入れ替わるので、トンボがトンボのままでいることや、ヒトで言えばその人らしさを規定しているのは、物質ではなく、それぞれに独自の秩序やプログラムのようなものであるという点で伝統と共通していると言えるのではないかと思います。遺伝子操作によって人為的に生命の動作原理を改変することができるようになりましたが、改変前より優れた個体を作り出すのが困難であることは、自然淘汰を経て進化の末に生み出された生命の仕組みの凄さを物語っています。伝統にもそういう頼もしさがあるように思います。

一方、ヒトの疾患について学んでいくと、生命の仕組みを正常に保つことが簡単でないこともよく判ります。仕組みの欠如や不全ばかりでなく、本来のはたらきの「誤作動」も病気の原因となります。一つの正常な仕組みに対して不具合のパターンが複数あるので、医学部の学生は正常の何倍も異常について学ばなければいけません。生命に関する多くの仕組みが、正常の観察からだけではなく、異常を詳しく調べることによって見出されてきました。正常なものをいくら真剣に見つめていても、その本当の良さや、その不具合によってどんなことが起きるのかについてはなかなか想像しきれないので、このことは、自然の法則だけでなく、人が作るルールやシステムにも当ては

まると思います。最近で言えば、これまでに経験したことがない感染症の蔓延や自然災害が起きていることも事実ですが、ヒトの活動が複雑化するのに伴って、その善悪や優劣を評価するルールの整備が急がされ過ぎたという気がします。質的に多様化したものを比較して順序をつけるために、数値化して定量的に扱おうとするのは変な話です。私たちが子供の頃には、大人や先輩たちが作ってくれた仕組みに対する信頼感がもっと強かったように思います。

私が生命科学の分野に進むことになったのは、実家の近所の立石公園などに広がる自然の影響が大きかったと思います。手を虫に刺されてすごい大きさの水膨れができるなどのひどい目にも遭いましたが、家族や近所のお兄ちゃんたちの話を頼りに林の中に入って、川底の石をどけてサワガニが這い出てきた時や、木の葉の陰に目当てのキノコを見つけた時の興奮は人に伝えたくなくなります。個々の形の良さや仕組みの巧みさに加えて、生命の大きな魅力の一つに多様性が挙げられます。試験管の中では、成長がちょっと速いものが現れるとそれがあつと言う間に他を圧倒してしましますが、自然界ではヒトが余計なことをしなければ、多様性の均衡が保たれます。最近注目を集めている腸内細菌叢も、悪玉菌や善玉菌など個別の菌の良し悪しに目が向きがちですが、前提として「叢」の名前の通り、多くの菌種をバランス良く含んでいることが重要です。細菌叢の多様性は簡単な計算で大小を決められますが、ヒトの活動の多様性を評価するのは難しく、さらに多様性を維持したり拡大したりするにはどうすれば良いかはもっと難しそうです。初め違和感を感じたものを一旦受け入れてみる好奇心を持ち続けることが大切ではないかと思います。今では伝統として伝えられているものも、特色があるからには、始まった当初は風変わりなものだったかもしれません。

世代間や年代間のギャップは誰でも感じるものだと思いますが、何となく

上下の世代と違うなあと感じていたところに、私たちの学年がバブル世代と団塊ジュニア世代の境目に当たることを知って、変に納得してしまうところがありました。上とも下とも違うが、どちらの気持ちも分かる世代が果たすべき役割がありそうです。今回の同窓会テーマである架け橋世代について考え始めた矢先に、そういう世代の介在や付度がかえって事態をややこしくさせる「ソフト老害」なる言葉が出てきたと聞いて少し氣勢をそがれてしまいましたが、自分が良いと感じてきたものを次の世代に丁寧に説明していくことは大切だと思います。懐古主義に固執して同じことを繰り返すのではなく、今の世の中に何が通用するかを次の世代の人たちと同じレベルで考えることが必要だと思います。同世代には、架け橋世代というやや控え目な立場にとどまらず、好奇心を持ち続け、今からでも特色あるものの発信を目指しませんか、と提案する次第です。

特集

伝統とNew Normal —われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」—

東京清陵会 91回生 主管

第10回
ミドル交流会
参加リポート

転換期を迎えた日本経済 投資・相続・年金 どう対応？

2023年12月9日 オンラインにて開催

牛山健一

これからの資産運用のあり方は？ 各界のプロによる充実の講演

記念すべき「第10回ミドル交流会」は2023年12月9日、東京・赤坂の事務所からオンラインで発信して開きました。金融業界、税理士、社会保険労務士の第一線で活躍する諏訪清陵高校同窓会東京支部（東京清陵会）91回生の3人が「お金のリテラシーを高め、来る時代を乗り越えよう」をテーマに講演しました。経済の潮流をつかみ、自分の資産をどう生かすか。親や自分の資産を相続する場合、税金はどうなるのか。そして、ほとんどが定年後も働き続ける中、気になる年金受給額の行方は一。専門家3人の講演は「お金を頂ける内容では」と思えたほどでした。

講師は、JPモルガン証券投資銀行部バイスチェアマンの藤森裕司さん、税理士法人豊田・矢澤会計代表社員の矢澤哲也さん、社会保険労務士事務所スリーハンドレッドコンサルタント代表の太田佳孝さんです。藤森さんは東京清陵会の学年幹事でもあります。

この日は、東京メトロ赤坂駅に程近い太田さんの事務所に、3人を含め91

回生の12人が集まりました。書類でごちゃごちゃしているのかと思ったら、とてもすっきり、きれいな室内でした。

講師のほか、企画の中心を担った小松（平出）文美さん（CSLベーリング・アソシエイトディレクター）や、高橋（金子）真由美さん（SCSK・人材戦略企画部長）、牛山直子さん（マーシュブローカー・ジャパン・バイスプレジデント）、柳生（堀内）香代さん（創和ホーム・インテリアコーディネーター）がテーブルを囲み、金子さんの司会で交流会が開幕。

……のはずが、冒頭6分ほど、ハウリングへの対応で開始が遅れました。失礼しました。

インフレにより貨幣価値が下落 無理のない投資を

—— 藤森裕司さん

トップバッターの藤森さんは「金利のある世界で変わる投資の常識」と題して講演。20年間、大手シンクタンクで証券アナリストを務めた後、外資系の投資銀行部に移って10年間勤めているというだけあって、グローバルで長

期的な視点でデータに基づき説明しました。

「長いトレンドから見て大きな転換点にあると痛感している。40年ぶりにインフレが常態化しつつあって、金利が戻ってくる世界にいま転換した可能性がある」。マイルドな口調で語り始めつつ、ずばり言い切りました。「現金を持っているのが最大のリスクになる」（追記：その後の2024年3月、日銀はマイナス金利政策の解除を決め、07年以来17年ぶりの利上げに踏み切りました。藤森さんは、この金融政策転換を予言していたかのようです）

藤森さんは、米国の金利が60年サイクル（ピークの間隔）で変動していることも示しながら、「（日本の）インフレが構造的に続く。インフレになることで、実質的に借金が減ることを国も想定している」と解説しました。

（追記：黒田総裁時代、日銀は市場で大量の国債を買い入れ、国債保有残高は大規模緩和導入前の12年度末の約125兆円から23年度末には約589兆円と4倍超に膨張しています。筆者も時事通信の経済部長から「国債残高を実質的に減らすには適度なインフレしかない」と聞いたことがあります）

中国の安い製造コストが世界のコストを下げ、「世界の工場」としての機能を果たしてきたが、それも変化。民主主義国より独裁主義の国が増え、経済のブロック化もより進む。それから「エネルギーのグリーン化、脱炭素にもお金がかかる」。こうした「コストアップ要因」が絡み、「これからも、インフレが続く」。それが、藤森さんの見立てです。

さらに「為替では、構造的に円安になっていく可能性がある。これもインフレ要因になる」と予想しました。



交流会運営に臨む91回生有志メンバー。左から矢澤哲也、小松（平出）文美、太田佳孝、藤森裕司、柳生（堀内）香代、高橋（金子）真由美、牛山直子の各氏



藤森裕司さん

特集

伝統とNew Normal—われら架け橋世代が「拓く・繋ぐ・紡ぐ」—



講演する藤森さん(中央奥)と交流会運営を支える91回生メンバーたち

(追記：為替は「専門家ではない」と言いながらも、その後の円安進行まで予言した形です)

インフレになると、お金の価値が下がります。藤森さんは「無理のない投資をするのがいい」と勧めました。

相続をめぐる複雑な課税制度 ポイントを押さえ、より有利に

——矢澤哲也さん

新宿・高田馬場で税理士事務所を開設している矢澤さんは「相続税と贈与税って何？ 初めて相続税について考える」とのタイトルで、平易な言葉で解説しました。

「贈与は、生きているうちに財産を受け継ぐこと。相続は、亡くなった後に財産を受け継ぐこと。生前か亡くなった後かで、税金の種類が変わる」。これまで、相続についてほとんど考えたことがなかった筆者にとっては、知らないことばかりです。

残された相続財産(土地・建物、現金・預金など)から、借金や葬式費用を差し引いた額が、「基礎控除額」を上回ると、相続税を支払わなくてはならない。矢澤さんは「残される財産のうち、大

きな割合を占めるのは土地、特に宅地」と言い、「東京都23区内に戸建て(住宅)を持っている方は、相続税がかかる確率が非常に高い。相続税の心配をした方がいい」と呼びかけました。一方、「長野県のような地方は、広大な宅地や多額の金融資産を持っていないければ、心配することはない」としつつ、「財産の全体を一度調べてみるのがいい」と促しました。

さて、相続税でどのくらい課税されるのか。「税率は最低10%。ぜひ覚えてください」

贈与を巡っては、「子供や孫へ、生活費、教育費として必要な都度、必要な金額をわたすのは非課税」と説明。「一人暮らしの1年分の生活費を渡すのは駄目。4年分の学費をまとめて渡すのも駄目」と強調しました。ただ、30歳までの子供か孫に対して、1500万円までまとめて贈与できる「教育資金の一括贈与」という制度もあり、やはり税制はややこしい。

「暦年贈与」は、1年間に贈与を受けた金額が110万円までなら贈与税がかからないとする制度。つまり、複数の人から贈与を受けても110万円以下なら課税されないが、例えば「おじいちゃん、おばあちゃんから110万円ずつもらったら220万円になり、贈与税がかかる」のです。

「こっそり、孫名義の預金通帳を作って、孫が大きくなってから通帳と印鑑をわたす」ケースについては、「毎年の入金時点では贈与は成立していない。例えば、10年たって1100万円をわたすとその瞬間に1100万円の贈与が成立す

る可能性がある」のだそうです。

また、相続税には「持ち戻し」という規定があります。「死亡日以前7年間に贈与された財産は相続税の対象」になります。従来は持ち戻し期間が「3年間」でしたが、2024年1月から「7年間」に変更され、年間110万円以下の金額でも、持ち戻しの対象になります。

矢澤さんは「暦年贈与したら、7年以上長生きしてください。長生きのモチベーションにする人もいます」と紹介。「孫への贈与は子どもより有利。通常、孫は相続で財産を受け取らない。相続人ではないので、贈与税だけで終わる」と解説しました。

他に、「配偶者への贈与の特例」や「相続時精算課税贈与」も説明した上で、「万人に一律に有効な節税方法は存在しないということは覚えてください」と強調しました。「相続をきっかけに、家族関係が修復不可能になるのは不幸なこと」として、「争族」「争続」にならないよう、早めの対策と専門家への相談を訴えました。

生涯現役世代に突入 年金受給の留意点は？

——太田佳孝さん

日頃は主に中小企業を対象に労務管理相談を受けている太田さんは「生涯現役時代に突入するミドル世代として備えること」と題して話しました。「生産年齢人口が減り、どこの事業所も人手不足で困っている。働ける限り、働いていかなければいけない世代だ」と、私たちが置かれた状況を説明し、働きながら年金を受ける場合の注意事項を解説しました。

働きながら年金を受けると、年金の一部や全額が支給停止になる場合があることや、高年齢雇用継続給付(60歳以上65歳未満)を受けると、年金額の一部が支給停止されることを説明しました。

年金は原則として65歳から受け取ることができます。減額されるが、希望すれば60歳から65歳になるまでの間に繰り上げて受け取ることも可能です。



矢澤哲也さん



講演する矢澤さん(右)と、全体の進行を担う小松(平出)文美さん(左)

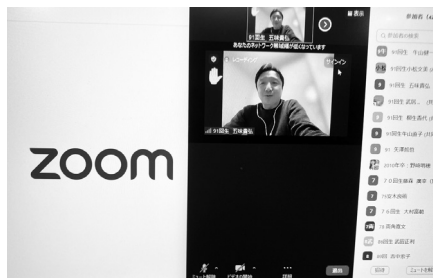


太田佳孝さん



講演中の太田さん。右は司会を担当した高橋(金子)真由美さん

年金を早く受け取ることの是非についてリモートで質問されると、太田さんは「ありだと思う。人は100%死が訪れると思うが、いつ訪れるかは自分にも分からないことだ」と答えました。



オンラインで質問する五味貴弘さん(91回生)

お金をめぐる学びと対策が豊かな老後を支える

太田さんの事務所には、諏訪清陵高等学校同窓会2024年度定期総会の学年幹事である藤森完一さん(フォレスト内科クリニック院長)が仙台市から、小平謙治さん(東和電子代表取締役)が茅野市から、丸山寿法さん(仲幸設備機器代表取締役)も諏訪市から駆け付け、「応援」しました。

NHKメディア総局ドラマ番組チーフプロデューサーの樋口俊一さんが本職を生かして(?)、タイムキーパーをし、筆者の牛山健一(信濃毎日新聞社東京支社報道部長=24年4月から本社総務局次長)が写真撮影や記録を務めました。

参加者は48人。最後に、同窓会東京支部会長の両角寛文さん(78回生)がリモートであいさつしました。講師や企画、運営に携わった91回生をねぎらった上で「お金に関して勉強をして、時間をかけて対策をしていくことが豊か

な老後にプラスになる」と話しました。

私自身はこれまで、ほとんど資産運用や相続について考えたことがなかったのですが、これを機に真剣に勉強しようと思いを決意しました。

家族とリハーサルを入念に繰り返したと打ち明けてくれた講師もいました。話したのは初めて、30年ぶりという者同士を含め、それぞれの立場で協力して成功に導いた91回生有志を誇らしく思った一日でもありました。

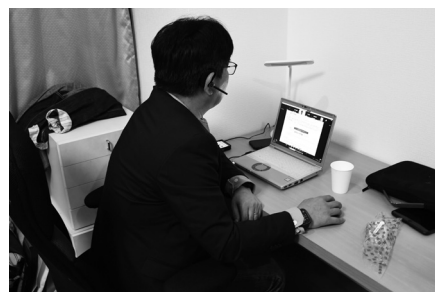
12人は近くの居酒屋で、さらに交流を深め、会報や定期総会の企画テーマについても意見を交わしました。



質問する91回生学年幹事、藤森完一さん(中央奥)



タイムキーパー役を担った樋口俊一さん



応援に駆けつけた丸山寿法さんは、会場の隣室にてモニタリング



会場と隣室を行き来しながら運営をサポートする91回生たち

無事に交流会を終え、打ち上げで盛り上がる講師と運営・応援メンバー。右端が筆者(牛山)



打ち上げ後、店の前で記念撮影。前列左から、柳生(堀内)香代、丸山寿法、高橋(金子)真由美、小松(平出)文美、小平謙治、牛山直子。後列左から、太田佳孝、藤森完一、筆者、藤森裕司、樋口俊一、矢澤哲也の各氏

第10回 ミドル交流会

2023年12月9日に、91回生主管で第10回ミドル交流会をオンラインで開催しました。「お金のリテラシーを高め、来る時代を乗り越えよう」というテーマで、お金との付き合い方に焦点を当てた講演を行いました。

講師には、金融システムや投資、税務、労務管理の専門家が招かれ、それぞれの分野から知見を提供しました（詳細な内容は前項を参照）。

講演後の質問時間を含め、全体で約1時間30分のセッションを設け、67回生から114回生までの幅広い世代から、48名が参加しました。

ただ、もっとも多い参加者は、シニア世代（一般的には50歳代）で、ミドル世代は少数でした。終了後、23名の参加者からのアンケートで、オンラインまたはハイブリッド形式での開催を望む声が多数寄せられました。この交流会では、お金という広範囲にわたる

3人の専門家から幅広い「お金のリテラシー」を高める機会を提供

テーマを扱いながらも、参加者からは肯定的なフィードバックが得られ、幅広い同窓生間での知識共有の場として、また同窓会への興味を深める機会になったのではないかと考えました。

ミドル交流会は、55歳の幹事学年を迎える前哨戦としての開催が定着しており、今年で10回目を迎えました。91

回生がこの交流会を通じて結束を深めたことは良い結果と言えますが、ミドル世代の参加が期待通りに伸びていないため、ミドル世代の活発な交流を促進する場の整備は、今後も引き続き課題として取り組む必要があると感じました。

(91回生 小松文美)

第11回ミドル交流会(92回生主管)のお知らせ

テーマ「安心安全な暮らしのために ～学校教育とサイバーセキュリティの現場から～」

開催日時：令和6年12月7日(土) 15時から

開催方法：リアルとオンラインのハイブリッドにて開催

会場：都内貸会議室を予定

講師：竹内良之(岡谷市立岡谷田中小学校校長)、一ノ瀬勝美((株)NTT Risk Manager社長)

内容：私たちの生活のなかに潜むさまざまなリスク。あまり気にしたことはなかったけれど…、という方もいらっしゃるかもしれません。学校教育の現場の取り組みや、リスクマネジメントの専門家の知見を踏まえて、安心安全な暮らしについて皆さんと一緒に考えます。参加ご希望の方は、下記URLからご登録をお願いします。

<https://forms.gle/eeSWZXfEwKxRUQyM7>

会場や、オンライン配信の参加方法については、

登録いただいたメールアドレス宛に連絡いたします。(92回生 溝口浩司)



お申し込みは
こちらから

2023年度 女子部活動報告

東京清陵会女子部は2023年度の活動として2回のリアルイベントを開催。

<12月17日「女子力UP講座」>

女子が好きなことをテーマにしたイベントと企画した「女子力UP講座」。

今回はティーインストラクターである89回生の加藤桂子さんを講師に、美味しい紅茶の入れ方とクリスマス向けスパイスティー作りのワークショップと「ハーバリウムボールペン」作りを、都内のパーティスペースにて実施。8名でのアットホームな開催となりました。

「美味しい紅茶の入れ方」のレクチャーから始まり、加藤さんがご用意くださった数種類のスパイスティーの飲み比べをしました。想像以上にそれぞれのお茶に特徴があり、飲むたびに参加者の

皆さんから様々な感想が上がりました。そして、実際にシナモンやカルダモンなどのスパイスを刻んだり、細かく割いたりしながら、自分だけのスパイスティーをブレンドしてボトリング。自作のハーバリウムボールペンと共に持ち帰りのお土産となりました。締めにはクリスマス前に欧米で食べるという伝統菓子「ミンスパイ」をいただきながらのおしゃべり&ティータイム。クリスマスを満喫する時間となりました。

<2月26日 ロシア歌曲コンサート鑑賞>

オペラ歌手で二期会所属の89回生橋爪ゆかさんの「ロシア歌曲定期演奏会」を東京文化会館にて鑑賞、音楽好きの同窓生の男女合わせて7名の参加となりました。橋爪さんをはじめとした二期会の皆さんの歌声を堪能し、コンサート後には会場近くで懇親会。

好きな音楽の話やそれぞれの高校時代の話で盛り上がりしました。イベント

を通じて、初めて会う同窓生でも共通の話題で楽しい時間を過ごせること。世代を超えて話ができること。こういう小さな輪によって生まれる接点が同窓会ならではの醍醐味だと感じます。

東京清陵会女子部は、同窓生の皆さんの交流の場として、男女問わず、年齢問わずに楽しめるイベントを企画していく予定です。

開催予定は同窓会の各Facebookにて告知しますので、よろしくお願いします。

(事務局 88回生 浜美智子)



同期会 73回生

3年越しの古希祝い

語呂合わせで「なみの会」と称している我々73回生は昨年度、古希を祝う3つの記念企画に取り組みました。当初は年度内に70歳に達する2021年に計画していたのがコロナ禍で延期が続き、「3度目の正直」で実現できました。首都圏からの参加も多く、寄稿依頼がありましたので東京清陵会の会報紙上でも報告させていただきます。

3年越しの「古希の集い」を2023年10月21日に上諏訪温泉・ホテル鷺乃湯で開き、同期仲間67人が参加しました。2019年の「卒後50年の集い」に次ぐ会合でしたが、70代を迎えても元気で集まれる喜びの顔で盛り上がり、大いに話が弾みました。一方で、同期273名のうち、すでに39名が亡くなっていて、会の冒頭、黙祷を捧げて追悼しました。会場では、この日に合わせて製作した『古希記念誌・清水ヶ丘からⅡ～言いたいこと、伝えたいこと～』を配布しま



した。卒後50年の記念誌に次ぐ第2弾で、62名の同期生が70代ならではの味わい深い計93作を寄稿しており、前回に続き、母校や同窓会事務局はじめ、国立国会図書館や地元6市町村の図書館などへも寄贈しました。

記念企画の3つ目は、集い当日、上諏訪駅前の諏訪市営交流テラス「すわっチャオ」で開いた一般公開（入場無料）の講演会「フレイルとは？ 認知症とは？」です。同期で著名な老年医学専門医の鳥羽研二・東京都健康長寿医療センター理事長が講師を務め、軽妙な語り口でフレイルと認知症に関する基本情報や予防法を解説。事前の広報活動にも力を入れたため、参加者210名で会場は埋まりました。活発な質疑もあり、アンケートには「とても参考になりました」といった好評の声が多く

寄せられ、我々なりの地域貢献を果たしたい、との願いが叶ったと感じました。

1969年度に卒業の73回生は、1999年に「卒後30年の集い」を同期111名の参加で開催したのを皮切りに、「卒後40年の集い」（2009年）の際には母校に校歌の額を寄贈、「還暦の集い」（2012年）、「卒後45年の集い」（2014年）、「65歳の集い」（2017年）、「卒後50年の集い」（2019年）と旧交を温める場をたびたび設けてきています。来年2025年に次いで、2027年には喜寿の集いを開く予定にしています。

（なみの会事務局長・73回生 山田雄一）



200回を超えた 清陵勉強会

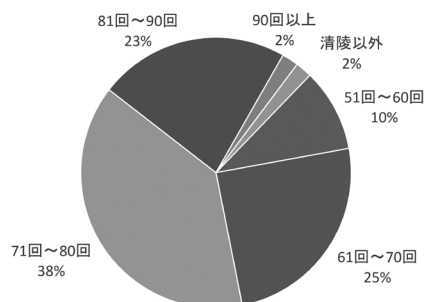
清陵勉強会は、1990年2月にスタートして、2024年2月に200回を迎えた。清陵勉強会の趣旨は、清陵同窓生が各方面で活躍していることは知っているものの「誰が何をしているか」について知る人は少なかった。そこで清陵OB・OGに成果を披露してもらう場として偶数月の第2火曜日を設定した。また参加者は同窓生だけではなく、興味のある人は紹介があれば参加可能とした。一方、講師への交通費・講演謝礼はないが、終了後の懇親会費用は無料とした。清陵勉強会は東京清陵会とは別に活動を始めたが、会場費・機材等の参加者負担軽減のため、現在は東京清陵会の事業のひとつになっている。

● 第1期（1～100回）1990年2月～2006年10月 ● 第2期（101～200回）2006年12月～2024年2月

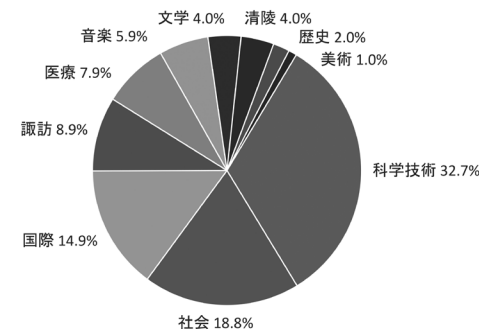
101回からの第2期は、世話人を米山勉夫（63）、飯島由美子（70）、山田雄一（73）、有賀一温（75）が引き継いだ。山田、飯島が退いた後、功刀正行（69）、関屋孝行（76）、矢崎理恵（81）が加わった。コロナ禍の2020年2月は開催出来なかったが、2020年5月にZoom開催ができることを確認し、10月に第180

回として再出発した。2023年6月の第196回からは、Zoomを併用したハイブリッド開催として、2024年2月に第200回を迎えることができた。現在は原秀男（73）、武田正利（86）、浜美智子（88）、吉中宏子（89）、有賀一温のチーム編成となっている。第3期スタート時、第201回は第2期の内容を分類して今後の清陵勉強会の方向性を考えるきっかけとした。第2期の講師・講演内容等は以下のようになっている。

清陵勉強会 第101回～第200回 講師の分類



清陵勉強会 第101回～第200回 テーマの分類



会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2023年度会費納入者ご芳名(2023年4月1日～2024年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

回生	氏名	70	藤森 行雄	76	垣内 国光	84	清水 信次
66	太田 治人	70	齊藤 万比古	76	北澤 道子	84	野村 典亨
66	五味 洋	70	竹村 善隆	76	関屋 孝行	84	金子 勝彦
66	河西 三彦	70	清水 英俊	76	石井 和夫	84	小口 高
66	長田 敏郎	70	河西 広実	76	金子 次男	85	小平 秀一
66	降幡 賢一	70	一ノ瀬 益夫	76	原 正悟	86	猪股 顕文
66	徳永 忠次	70	田村 志げ子	76	中島 真一	86	大久保 淳一
66	中村 俊夫	70	久保田 功一	76	森田 益弘	86	武田 正利
66	丸茂 雅弘	70	中村 典男	77	小林 初彦	86	細田 明
66	林 央	71	北澤 一保	77	土橋 一郎	86	宮澤 俊樹
66	武居 秀夫	71	北澤 守一	77	渡辺 恵祐	87	浜野 崇
67	池上 志奈子	71	三橋 ひさ子	77	田添 珠実	88	野澤 聡
67	吉澤 修平	71	浜 研一	77	春日 敏彦	88	鮎澤 茂
67	小平 攻	71	磯野 康子	77	堀田 康之	88	増澤 浩一
67	樋口 兼久	71	増澤 博和	77	金子 和男	88	高島 由季子
67	増沢 和夫	71	森 史郎	77	金子 恵子	88	佐藤 美智子
67	平林 千義	71	森 さと子	78	小松 一俊	88	村山 光義
67	柳平 直茂	71	小川 元嗣	78	両角 寛文	89	金子 美智子
67	細川 正行	72	白鳥 洋治	78	東城 清秀	89	田中 千浩
67	小林 三平	72	桑澤 元孝	78	石埜 穂高	89	吉中 宏子
67	名取 省三	72	笠原 勇二	78	加用 利彦	89	大野 美江
67	湯田 英人	72	小口 邦雄	79	高橋 則広	89	飯島 誠
68	原田 盛夫	72	新井 滋平	79	守屋 治	89	金子 哲哉
68	進藤 秀一	72	原田 文登	79	青沼 巻弘	90	藤森 伝一
68	松尾 幸人	72	林 健康	79	三井 夏海	90	古澤 博文
68	藤森 照信	73	浅川 辰司	80	油井 幸雄	90	古村 雅利
69	茅野 泰幸	73	原 秀男	80	花岡 友子	90	小林 政成
69	藤森 光彦	73	両角 誠	80	工藤 千秋	90	岡島 祐子
69	柳平 三雄	73	伊藤 俊巻	80	柳平 正樹	90	小口 泰史
69	小尾 岬	73	熊谷 靖樹	80	青沼 裕之	90	新井 直子
69	比田井 昌英	73	窪田 敏	80	米澤 あ子	90	長野 玄
69	比田井 和子	73	マディーン啓子	81	松原 雅子	90	王子田 卓也
69	柳平 克利	73	原 大	81	矢島 岐	90	矢島 敦視
69	中村 正治	73	山田 文雄	81	小口 和彦	90	小平 賢司
69	武村 光男	74	金井 良一	81	伊藤 愛一	90	大久保 直征
69	林 史章	74	土屋 彰男	81	加藤 博之	90	萩原 正美
69	玉置 守好	74	北原 嘉泰	81	森 政宏	90	榎並 万里子
69	真野 恒夫	74	白鳥 清	82	青木 基浩	90	小林 みゆき
69	渡辺 泰弘	74	五味 克成	82	篠原 誠一	91	小松 文美
69	小林 正秀	75	柳沢 治通	82	三井 拓志	91	太田 佳孝
69	川村 美枝子	75	有賀 文彦	82	北原 譲	91	牛山 健一
69	矢島 正明	75	伊藤 晴俊	82	小野 隆吾	91	藤森 裕司
69	功刀 正行	75	小平 聡	82	清水 正己	91	藤森 完一
69	佐藤 良昭	75	宮下 和彦	82	高橋 佳子	91	小平 謙治
69	浜 初美	75	濱 興治	83	倉田 重子	91	中村 寿生
69	牛山 隆夫	75	飯田 明	83	中村 美穂	92	植松 かおり
69	宮坂 秀一	75	小口 喜美夫	83	岡本 徹	92	高原 由紀子
69	山田 計夫	75	安木 良術	83	伏見 升成	92	西村 和訓
69	濱 照彦	75	今井 武	83	松崎 任宏	92	仲田 優
70	土橋 務	75	有賀 一温	83	両角 信彦	93	柳澤 寿男
70	平山 哲三	75	伊藤 せい子	83	小松 裕	94	原 実
70	石田 和夫	75	宮坂 平馬	84	小海 健治	96	田中 聡久
70	米澤 英樹	75	吉川 秀樹	84	島崎 義都	96	濱 真由美
70	喜内 静美	76	田中 修	84	赤羽 俊昭	99	荒木 健太郎
70	小林 金好	76	田沼 唯士	84	飯田 秀機	108	佐藤 圭一
70	高岸 洋夫	76	花岡 博茂	84	筧 慎治		
70	小口 隆夫	76	大村 富範	84	真田 明美		

2023年度賛助金納入者ご芳名(2023年4月1日~2024年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

回生	氏名	57	今井 恒夫	61	有賀 嘉信	63	守屋 憲一
38	北原 文雄	57	花岡 睦男	61	矢崎 豊晴	63	河西 武彦
48	濱 和廣	58	牛山 敏	61	篠遠 哲夫	64	武田 省吾
48	鈴木 徹	59	小林 一美	61	古村 民司	64	祖父江 宏三
50	故 平井 庸一 (妻 直子様)	59	伊藤 忠三	61	北原 隆	64	小林 宇夫
51	小松 袈伴	59	小松 守	61	中村 隆一	64	新村 恩
51	山崎 壮一	59	木下 博介	62	宮澤 生行	64	仁科 眞爾
52	笠原 哲次	60	野澤 勲	62	小林 和男	65	原 隆昭
52	牛山 積	60	小川 浩史	62	藤森 汎(健司)	65	松本 禎之
56	下平 勝幸	60	高橋 尚志	63	亘理 美代子(矢澤)	65	池田 昌純
56	渡部 清	60	高木 祥勝	63	両角 實	65	小林 俊徳
56	水野 武郎	61	唐澤 英安	63	米山 迪男	諏訪の会 (幹事64回 金原 恵介)	
56	河西 啓二	61	川村 昌平	63	金井 英雄		
57	弓削 純一	61	山本 裕一	63	藤森 宏一		
57	五味 乙	61	松澤 良治	63	小池 博人		
		61	早川 次彦	63	小松 広茂		

令和5年度 東京清陵会定期総会
記念講演会開催報告(10月1日開催)

会場95名、オンライン30名に加え山岸明校長、中村博同窓会長(オンライン)、小尾順子副会長、高木保夫事務局長の出席を賜りました。

物故会員への黙祷、両角寛文東京清陵会会長進行による総会後に講演会を開催。校長から生徒の活躍、進学実績などお話しいただきました。

講演=座長 国立環境研究所 林誠二氏(90回生)=では、高知大学の池原実教授(90回生)から、「研究航海811日:地球の営みを解き明かす知的探求の旅」と題し世界中の海を旅し、数万年にわたる地球環境変化を解明してきた成果を講義していただきました。

質疑応答も活発で自然科学は清陵の幹であることを認識しました。

懇親会は荒木健太郎さん(99回生)

の乾杯に始まり、笑顔はじける楽しい時間はあっという間で、小河原一浩さん(90回生)の音頭で校歌斉唱と成りました。早いペースの17分で歌い終え、岡島祐子さん(90回生)の宣言でお開きとなりました。事務局と同期の支援に深謝します。

(90回生 古村雅利)



諏訪の酒 真澄です。

真澄



MASUMI
SUWA 1662

人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ—一人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。
自然を結ぶ—負荷を最小限にしてより良い自然環境を継承する。
時を結ぶ—文化の継承。新たな価値の創造。

七号酵母発祥蔵元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



◀ 真澄ホームページ

東京清陵会の現況 データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2024年5月末現在)。

1. 東京清陵会会員の定義 (1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申し出者を除く)。(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。 2. 会員現勢 総数2,627名(住所不明者1,399名を除く) (1) 都県別会員数 東京都1,257名、神奈川県522名、千葉県325名、埼玉県308名、茨城県53名、群馬県18名、栃木県21名、その他123名 (2) 年次別会員数(下表) (3) 年次別会費納入者数(別表)

別表 年次別会員数と会費納入状況(2024年3月31日現在)

回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費
～38	7	28	35	1	61	63	14	77	11	82	51	25	76	7	103	2	5	7	0
39	1	3	4	0	62	75	10	85	3	83	69	34	103	7	104	0	2	2	0
40	1	5	6	0	63	80	12	92	9	84	51	27	78	10	105	1	0	1	0
41	2	9	11	0	64	62	15	77	6	85	48	43	91	1	106	2	6	8	0
42	6	7	13	0	65	62	15	77	4	86	44	37	81	5	107	1	0	1	0
43	4	2	6	0	66	65	23	88	10	87	32	33	65	1	108	2	12	14	1
44	10	9	19	0	67	82	16	98	11	88	29	48	77	6	109	2	12	14	0
45	4	7	11	0	68	57	30	87	4	89	57	37	94	6	110	1	14	15	0
46	1	10	11	0	69	92	19	111	23	90	63	31	94	15	111	2	4	6	0
47	13	6	19	0	70	84	26	110	17	91	22	40	62	7	112	2	1	3	0
48	27	7	34	2	71	64	29	93	9	92	21	48	69	4	113	10	4	14	0
49	40	6	46	0	72	46	22	68	7	93	16	32	48	1	114	3	4	7	0
50	23	16	39	1	73	68	20	88	9	94	22	22	44	1	115	7	2	9	0
51	42	25	67	2	74	61	29	90	5	95	12	31	43	0	116	13	3	16	0
52	50	15	65	2	75	53	21	74	14	96	13	39	52	2	117	5	2	7	0
55	15	2	17	0	76	55	22	77	12	97	13	23	36	0	118	12	14	26	0
56	50	9	59	4	77	54	24	78	8	98	5	33	38	0	119	15	6	21	0
57	73	16	89	4	78	60	40	100	5	99	9	12	21	1	120	11	6	17	0
58	54	14	68	1	79	59	18	77	4	100	6	19	25	0	124	1	0	1	0
59	74	12	86	4	80	70	12	82	6	101	2	12	14	0	合計	2627	1399	4026	283
60	74	27	101	4	81	66	19	85	6	102	1	5	6	0					

注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3) 会費:前会計期(2023.4～2024.5)会費あるいは賛助金納入者の人数
会費免除会員(～65回生、および119回生～)の人数 1,253名

収支計算書(案) 自2023年4月1日～至2024年3月31日 (単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	1,840,000	1,897,000	△ 57,000
(1) 総会会費(開催93名)	700,000	718,000	△ 18,000
(2) 会員年会費(222名)	510,000	444,000	66,000
(3) 賛助金会費(149名)	630,000	735,000	△ 105,000
2 諸収入	51,200	70,082	△ 18,882
(1) 寄付金	0	50,000	△ 50,000
(2) 預金利子	1,200	82	1,118
(3) 広告料	50,000	20,000	30,000
当期収入合計 (A)	1,891,200	1,967,082	△ 75,882
前期繰越	7,978,551	7,978,551	0
収入合計 (B)	9,869,751	9,945,633	△ 75,882

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1) 総会費用(開催)	900,000	945,832	△ 45,832
(2) 会議費	60,000	7,260	52,740
(3) 諸会費	140,000	130,000	10,000
(4) 印刷・通信費	160,000	148,566	11,434
(5) 事務雑費	20,000	7,337	12,663
(6) 会報費	620,000	636,134	△ 16,134
(7) 清陵勉強会	30,000	30,000	0
(8) HP運営費	50,000	19,220	30,780
(9) 予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計 (C)	2,010,000	1,924,349	85,651
当期収支差額 (A)－(C)	△ 118,800	42,733	△ 161,533
次期繰越 (B)－(C)	7,859,751	8,021,284	△ 161,533

寄付金:本部より40,000円、学校より10,000円

貸借対照表(案) 2024年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
流動資産			
現金	0		
普通預金(三菱UFJ)	1,245,029		
定期預金(三菱UFJ)	5,046,905		
郵便振替口座(会費・賛助金)	1,737,350		
流動資産合計		8,029,284	
資産合計			8,029,284
II 負債の部			
流動負債			
前受金	8000		
流動負債合計		8000	
負債合計			8000
正味財産			8,021,284
(うち当期正味財産増加額)			(42,733)
負債及び正味財産合計			8,029,284

以上監査の結果、正確なものと認めます。
令和6年5月31日 監査幹事 青木基浩 ㊞

2024年度収支予算(案) 自2024年4月1日～至2025年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	1,000,000
会議費	60,000
諸会費	140,000
印刷・通信費	180,000
事務雑費	20,000
会報費	500,000
清陵勉強会	60,000
HP運営費	50,000
予備費	30,000
小計	2,040,000
次期繰越	8,062,484
合計	10,102,484

収入の部

科目	金額
総会会費	880,000
会員年会費	480,000
賛助金会費	650,000
寄付金	50,000
預金利子	1,200
広告料	20,000
小計	2,081,200
前期繰越	8,021,284
合計	10,102,484

(注) 2024年度予算の収支差額は、
41,200円の剰余金となります。

役員改選(案) (任期 2024年11月~2026年10月)

会長	両角 寛文	(78回生)	幹事	小泉 和明	(46回生)	幹事	藤森 裕基	(88回生)
副会長	有賀 一温	(75回生)	幹事	宮坂 勝郎	(48回生)	幹事	両角はるか	(89回生)
副会長	石埜 穂高	(78回生)※	幹事	上原 秀秋	(49回生)	幹事	古村 雅利	(90回生)
副会長	米澤 あ子	(80回生)	幹事	松木 庄師	(49回生)	幹事	太田 佳孝	(91回生)
副会長	北原 譲	(82回生)※	幹事	笠原 哲次	(52・55回生)	幹事	矢澤 哲也	(91回生)
副会長	細田 明	(86回生)※	幹事	今井 恒夫	(57回生)	幹事	小口 一貴	(92回生)
			幹事	五味 英明	(58回生)	幹事	仲田 優	(92回生)
会計幹事	小海 健治	(84回生)	幹事	矢崎 悦郎	(59回生)	幹事	溝口 浩司	(92回生)
監査幹事	青木 基浩	(82回生)	幹事	篠原 健	(60回生)	幹事	松本 悦明	(93回生)
			幹事	宮澤 政文	(60回生)	幹事	原 豊	(94回生)
事務局長	吉中 宏子	(89回生)※	幹事	早川 次彦	(61回生)	幹事	宮下 正臣	(94回生)
副事務局長	武田 正利	(86回生)※	幹事	藤森 汎	(62回生)	幹事	田中 聡久	(96回生)
副事務局長	佐藤美智子	(88回生)※	幹事	垣内 直	(64回生)	幹事	丸山 伸也	(97回生)
事務局幹事	岡本 徹	(83回生)	幹事	祖父江宏三	(64回生)	幹事	森 英一	(98回生)
事務局幹事	赤羽 俊昭	(84回生)	幹事	金子 充宏	(65回生)	幹事	小口 博正	(100回生)
事務局幹事	清水 信次	(84回生)	幹事	林 央	(66回生)	幹事	岡 真也	(101回生)
事務局幹事	荒木健太郎	(99回生)	幹事	小平 攻	(67回生)	幹事	福島 洋一	(102回生)
			幹事	小林 盛男	(68回生)	幹事	三宅 大作	(104回生)
顧問	小川 勝嗣	(59回生)	幹事	比田井昌英	(69回生)	幹事	福島 理雄	(105回生)
顧問	藤森 宏一	(63回生)	幹事	久保田功一	(70回生)	幹事	小池 伸	(106回生)
顧問	生越万理子	(66回生)	幹事	北澤 一保	(71回生)	幹事	間宮 薫	(107回生)
顧問	平林 千義	(67回生)	幹事	市村 敏夫	(72回生)	幹事	三井 大樹	(107回生)
顧問	原 大	(73回生)	幹事	原 秀男	(73回生)	幹事	久納 多恵	(108回生)
			幹事	両角 誠	(73回生)	幹事	山川 裕矢	(109回生)
常任幹事	鈴木 敞	(48回生)	幹事	北原 嘉泰	(74回生)	幹事	小口 七海	(109回生)
常任幹事	米山 廸男	(63回生)	幹事	小平 聡	(75回生)	幹事	小林 雄一	(109回生)
常任幹事	守矢 早苗	(67回生)	幹事	金子 次男	(76回生)	幹事	柳澤 広識	(110回生)
常任幹事	春山 明哲	(68回生)	幹事	宮坂 英二	(77回生)	幹事	山田 智衣	(110回生)
常任幹事	功刀 正行	(69回生)※	幹事	東城 清秀	(78回生)	幹事	中村 太軌	(111回生)
常任幹事	林 健康	(72回生)	幹事	宮原 佳彦	(78回生)	幹事	田中 正明	(112回生)
常任幹事	窪田 敏	(73回生)	幹事	原田 健	(79回生)	幹事	北原 智啓	(113回生)
常任幹事	マディーン啓子	(73回生)	幹事	丸山 重久	(79回生)	幹事	林 毅	(114回生)
常任幹事	伊藤せい子	(75回生)	幹事	藤森 正樹	(80回生)	幹事	平林 怜	(115回生)
常任幹事	後調 正則	(76回生)	幹事	脇坂 守一	(80回生)	幹事	石城 陽太	(116回生)
常任幹事	田中 達也	(81回生)	幹事	五味 正信	(81回生)	幹事	太田 恵輔	(116回生)
常任幹事	森 政宏	(83回生)※	幹事	安川 昌昭	(81回生)	幹事	笠原 千鶴	(116回生)
常任幹事	伊東 和夫	(85回生)	幹事	小野 隆吾	(82回生)	幹事	秀島 真奈	(117回生)
常任幹事	蟹澤 啓明	(87回生)	幹事	篠原 誠一	(82回生)	幹事	茅野 理子	(118回生)
常任幹事	藤森 裕司	(91回生)	幹事	竹内 雅彦	(82回生)	幹事	宮坂 慶佑	(118回生)
常任幹事	小松 文美	(91回生)	幹事	小松 裕	(83回生)	幹事	小野 峻	(119回生)
常任幹事	斎藤 理恵	(97回生)	幹事	飯田 秀機	(84回生)	幹事	平林 蒼音	(119回生)
常任幹事	勝 美穂	(110回生)	幹事	大和田敏子	(84回生)	幹事	油井 恭介	(119回生)
常任幹事	帯川 恵輔	(118回生)	幹事	矢崎 治孝	(84回生)	幹事	岡崎 佑樹	(120回生)
			幹事	波賀かおり	(86回生)	幹事	中山 茉優	(120回生)
			幹事	加藤 正治	(86回生)	幹事	今井 裕二	(121回生)
			幹事	北澤 聖	(87回生)	幹事	小島 圭登	(124回生)
			幹事	須藤美香里	(88回生)			

※新任(2024年10月総会(会報書面開催)承認により、11月から就任予定、なお、連絡役も幹事として表記)

2023年度 事業報告

2023

- 4.19 第1回事務局会議 南部労政会館およびZoom開催
4.25 第195回清陵勉強会 Zoom開催 講師:土橋勝(64回生)
5.7 事務局三役および幹事学年代表者による会議 Zoom開催
5.18 第34回東京清陵会ゴルフコンペ(高根カントリー倶楽部) 参加者8名
5.20 南信同窓連総会 アルカディア市ヶ谷(東京清陵会から9名出席)
5.21 常任幹事会 Zoom開催
6.27 第196回清陵勉強会 タカギクラヴィア松濤サロンおよびZoom開催
講師:橋爪ゆか(89回生)
7.1 東京同窓連総会 アルカディア市ヶ谷(東京清陵会から6名出席)
7.12 学年幹事会 南部労政会館およびZoom開催
8.15 会報「東京清陵会だより」第34号発行 発送3000部
8.22 第197回清陵勉強会 ゲートシティ大崎ウエストタワー2階およびZoom開催
講師:工藤千秋(80回生)
10.1 第57回定期総会 アルカディア市ヶ谷およびZoom開催
10.24 第198回清陵勉強会 ふれあい貸し会議室:品川No. 87およびZoom開催
講師:酒井崇裕(86回生)
12.9 第10回ミドル交流会(開催幹事91回生 Zoom開催)
12.13 第2回事務局会議 南部労政会館およびZoom開催
12.17 女子会主催行事 女子力UP講座(ブレンドティ作り&ハーバリウムボールペン作り)
飯田橋パティールーム 参加者8名
12.19 第199回清陵勉強会 TIME SHARING Biz 品川BおよびZoom開催
講師:野澤 聡(88回生)

2024

- 1.20 東京清陵会日本酒同好会「龍のいる空間で真澄や地酒を楽しむ会」否否三杯
2.26 女子会主催行事 橋爪ゆかさん(89回生)コンサート(ロシア歌曲定期演奏会)鑑賞
東京文化会館 参加者7名
2.27 第200回清陵勉強会 TIME SHARING Biz 品川BおよびZoom開催
講師:原 大(73回生)

2024年度 事業計画

1. 第58回総会・交流会 10月5日(土曜) 喜山倶楽部Zoom開催 当番幹事91回生
2. 会報「東京清陵会だより」第35号の発行 8月上旬
3. 事務局会議(4、11月、南部労政会館およびZoom開催)
4. 常任幹事会(5月) Zoom開催・学年幹事会(7月) 南部労政会館およびZoom開催
5. 第8回働くことを考える若手の会の開催
6. 第11回ミドル交流会の開催
7. 女子会各種イベントの開催
8. 新卒歓迎・学生交流会
9. 清陵勉強会の開催(原則偶数月の第4火曜日)
10. 事務局・委員会制度の整備 次世代ワーキンググループ、DX委員会の設置と推進
11. 会員情報管理の高度化・効率化
12. 東京清陵会ホームページの拡充、SNS利用の拡大
13. 懇親ゴルフ会の開催
14. 本部同窓会・南信同窓連・東京同窓連活動への参加
15. 母校・生徒との連携・交流の拡充(講師派遣・職場見学協力・清陵祭への参加等)
16. その他必要とする事業

編集後記

「編集委員って何?」と思うくらい、会報作成を自分事として捉えていなかった私。卒業以来、東京の同期にはご無沙汰で、同期会すら開催されず、果たしてできるのか不安でした。しかし、2~3名の同期のつながりが広がり、そして清陵の求心力で、多くの同期が参加し、それぞれ力を発揮してくれました。編集経験があり責任感のある中島敏子さんにたどり着きました。彼女には深い謝意を表します。また、寄稿いただいた方々、原稿を起こしてくれた牛山健一さん、書を提供してくれた寺島和雄さん、座談会に参加した皆様、幹事学年として支えてくれた藤森裕司さん、そして、事務局の先輩方の支援に改めて感謝します。本当に発行までこぎつけてほっとしています(小松)。

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏 名	回	逝去年月日
松田 保人	41	2023/9/26
今井 保穂	45	2023/3/9
笠松 幸雄	46	2014/6/19
矢花 禎雄	46	2021/3/13
新村 正全	47	2021/9/29
五味 仙衛武	47	2023/10/20
武井 宏夫	48	2023/10/2
宮坂 知夫	48	2023/5/7
宮坂 安雄	49	2023/7/26
赤羽 省吾	50	2014/9/10
小澤 芳夫	50	2021/12/15
小松 庸男	50	2022/10/29
野澤 恵	50	2022/5/1
平島 敏一	50	2021/8/1
木見尻 勝巳	50	2022/7/3
神中 隆祐	51	2023/4/30
小平 恂	51	2022/10/25
小松 康郎	51	2020/10/2
渡辺 厚司	51	2017/11/24
土橋 創作	52	2023/3/8
中村 繁之	52	2023/1/21
小池 智麿	55	不明
小坂 弘	56	2021
片野 満	56	2022/9
五味 瑞治	57	2023/11/22
岡田 茂	57	2021/11
野澤 昭兆	57	不明
守田 恒	58	2023/4/12
古畑 喜博	58	2023/3/13
岡田 正	59	2020/2
太田 瑞穂	60	不明
五味 章次	60	2022/11/28
篠原 久明	61	2020
茅野 芳久	61	2022/11/27
宮坂 敦文	61	2022/9/4
中谷 範行	62	不明
三澤 祥地	62	2022/9/17
水野 直幹	63	2021/11/4
佐藤 嘉代	63	2023/2/21
渡辺 紹司	64	2018/7/18
川口 誠	65	2024/1/14
宮坂 祐次	65	2013/6/7
矢嶋 清昭	65	2023/4/28
原田 光博	67	2022/10/22
横内 信雄	67	不明
藤森 直	68	2023/8/4
木村 信夫	68	2023/3/17
名取 與平	68	2022/6/24
岩波 清信	73	2020/3/8
矢島 健二	73	2023/9/13
藤森 武典	75	2024/4/23
加藤 智子	82	2023/2/3

●事務局にご連絡をいただいた方(本国会報第50号含む)を掲載。

第36回東京清陵会ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。

同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

●日時:9月14日(土) 8時30分集合 9時スタート

●場所:紫カントリークラブ あやめ36 西コース

(常磐自動車道・柏ICから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分)

●プレー代:約20,000円(食事付) 会費:3,000円

参加希望の方は、清水(84回生) shimizu@palam.jp まで。

住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください。

●幹事=青木基浩(82回生)、小海健治(84回生)、高橋(金子)真由美(91回生)

「東京清陵会」
ゴルフ同好会



◆お知らせ◆

今年度より会報の送付・閲覧方法を見直し、紙での郵送は会費及び賛助金納入者のみとさせていただきます。同時にホームページでの閲覧が可能となりましたので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。